

新居浜中央ライオンズクラブ

行 先：福島県南相馬市・宮城県気仙沼市

日 程：平成25年4月28日(日)～5月3日(金)6日間

参加者：15名

感想文抜粋

・バスツアーに参加した人は、その訪問後もいろいろな形で東北支援にかかわっていただき、新居浜では支援の輪が確実に広がっていきました。東北と愛媛を支援バスは大きくつないでいると思います。(男性)

・復興に向け進んでいますが、まだまだ始まったばかりといった感じに思いました。復興現場での基本計画等を見学し、規模の偉大さに驚きました。人力ではどうにもならないこともあります。人力でないといけない事、私個人何か役に立つことを前向きに努力していきたいと思っています。(男性)

・実際に現地に行き見ること、感じることで、東北の人々と思いを共有することが、継続的な支援を続けるベースとなる。ニュースではわからない現実がそこにある。より多くの人たちにこのような体験をしてもらいたい。(女性)





愛媛県教育委員会(ヤングボランティアセンター)

行 先：宮城県七ヶ浜町

日 程：平成25年8月5日(月)～8月8日(木)4日間

参加者：19名

感想文抜粋

・ボランティア活動を通して七ヶ浜の絆を感じました。みんなが一つになって復興に向けて毎日活動するのはすごいと思います。私も少しだけ復興の力になることが出来て嬉しかったし、一生忘れられない思い出ができました。(高校生・女子)

・完全な復興の難しさを思い知るとともに、人の優しい想いの大きさを知れました。高校生の今、こんな貴重な経験をできたこと、そして感じ学んだことをこれからも忘れずに大切にしていきたいと思います。(高校生・女子)

・今回の震災はこれから生きていく上で忘れてはならない出来事だと思います。私たちのように実際に被災地を訪れた人たちは、周りの人に現状を伝える義務があると思います。2日間という短い間で私たちが知り得た情報はわずかかもしれませんが、しっかりと伝えたいと思います。(高校生・女子)





愛媛県社協中核スタッフ(東松島市)

行 先：宮城県東松島市

日 程：平成25年12月15日(日)～12月21日(土)7日間

参加者：8名

感想文抜粋

・災害時〇〇と言われるが、ベースは普段からの住民により沿う継続的な支援の実施である。今後、愛媛県でも防災と福祉への取り組みがすすむなか、住民が主体となり個人の方の不安や思いに寄り添いその方の力を引き出し住民が自ら地域の主役とされるよう地域づくりをしていきたい。(男性)

・行政や社協等に求められてくる住民ニーズや課題は多種多様であり、個別支援と地域支援が両輪となり、生活支援を展開していくことの重要性を改めて認識した。どの被災地においても共通して言えることであるだろうが、各生活ステージの移行に従って、新たな課題がその都度生まれてくる。またそれは、各課題に併せて、社協組織も変革していく必要性を意味するものであると思う。(男性)



